

## 元気で新しい八尾のまちづくりを考える市民懇談会（第7回）議事概要

日 時：平成 21 年 8 月 4 日（火） 午後 6 時 45 分から午後 9 時 15 分頃

場 所：市役所本館 6 F 研修室

出席者：委員 13 人（欠席 7 人）、事務局 8 人（内コンサルタント 2 人）

### 1. 開会

### 2. 座長挨拶

・開会にあたり初谷座長からあいさつがありました。

・中間報告や提言書案のとりまとめにあたっては、タイトなスケジュールの中でご尽力いただきありがとうございました。本日は提言書提出に向けての最後の全体会議ということで、集大成をうまく図りまして、提言書にまとめていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 3. 議事

#### 1) 各グループからの修正点の報告（発表）

・これまでの検討成果について、各グループから順次発表していただきました。

・発表を受けて、初谷座長から次のようなコメントがありました。

・「人権の項目を追加」については、人権文化のまちづくりのところと連動しているので、セットで書き込むことが必要ではないか。医療の部分についてもご意見をいただきたい。

・観光や新産業の創出について大幅に加筆いただいている。

・地域別計画、将来の都市像、ラウンドテーブル、コミュニティ推進スタッフを中心に発表いただいた。検討においては、「多様なコミュニティの参加」については、新旧住民の参加という視点で書かれているが、地域コミュニティと NPO のようなテーマ型組織の連携といった視点もあるとのご意見もあった。

・委員から質問があった「退職手当債」についての説明があり、意見交換がありました。

・事実がわかったので満足した。以前の全体会で、財政状況について説明を受けたときに、人件費が減っているという説明のなかで「退職手当債を除く」という表現があったので質問した。市民から見えにくいところで借金が増えているように感じている。公務員の退職金は聖域であるかのごとく借金をしてもいいのだろうか。

・ただいまのご指摘に対しては、たとえば 3 ページの「行財政の建て直し」の項目のところで、財政状況を公開していくことについて書き込むことが考えられる。

#### 2) 意見交換

・資料説明の後、提言書のとりまとめに向けて、意見交換がありました。

- ・提言書全体のボリュームが増えてきているので、目次のところのレイアウトを工夫するなどして、全体の構成が一目でわかるような工夫をしたい。人権に関する提言7については、本日ご意見をいただき、B-1グループと調整しながら、横断的な文章を作成できればと思う。また、「多言語でメッセージを発信する」というご提案については、懇談会の提言をすべての市民に知っていただきたいというニュアンスもこめて、コラムとして示していくことが考えられる。また、脚注について市職員からの意見が示されているので、その対応についても考えていきたい。
- ・学習会で発表されたことが反映しきれていないので、人権・福祉に関連する部分に追記したい。
- ・子育てと就労の両立に関して、職員から、「働きながら子育てをする」だけでなく、「家庭で子どもと向き合う」というスタイルもあるのではないかという指摘がある。  
→どちらを選ぶこともできるようにすることが必要と考えている。家庭で子育てをしていても必要な情報が届くようにしていきたい。  
→家庭で子育てをしているといろんな意味で孤立したり孤独になったりする。情報がないことで行き詰まることもあるので、両方に対していろんな選択肢がある状態が望ましい。  
→働いている保護者であっても、子どもとちゃんと向き合っていると思う。「子どもと向き合うために仕事をしない」という表現はよくない。大変な状況で子育てをしている人をサポートしていくことが重要である。  
→誤解を招かないような表現にすること、2つの選択肢を用意していることを示すこととしたい。  
→父親が子育てに関わっていない状況がある。ワークライフバランスがすべての市民に行き渡ることをめざすようなニュアンスも盛り込んでほしい。
- ・将来都市像については、各グループからの提言内容を集約したかたちで作成いただいているが、ご意見をいただきたい。  
→産業経済についての記述が弱いように感じる。  
→将来像の1番目に産業経済に関わる趣旨を追記することとしたい。
- ・将来都市像の順番についてもご意見をいただきたい。  
→特にご意見がなければご提案の順番としたい。  
→余裕があれば図で示せればと思う。
- ・横断的テーマについてご意見をいただきたい。
- ・八尾の観光資源について具体的に紹介があるとよい。ミュージアムなど新しい観光資源を作るといった趣旨にとられることが懸念される。八尾にはいいところがたくさんあるという話を多くの方がされていた。文化の記述を充実できればと思う。

- 観光資源を分類して示したい。
- このような八尾観光が成り立つということを具体的な観光プランとして示していただくとうわかりやすい。
- 八尾にどのような資源があるのかを専門的な視点からまとめるだけでも重要なことである。時間に余裕があれば、プラン的なものも示していただければと思う。
- 地域経営の再構築については、いきなりラウンドテーブルの話になっており、地域経営についてのコメントがあったほうがわかりやすいかもしれない。地域別計画についても同様である。
- 「地域経営」という言葉については第4次総計の時から言葉に違和感がある。経営とはもっと次元の高いものであると思うが、今の地域経営に関しては、協働や支援というところに重きが置かれているように思う。
- ご指摘のとおり矮小化しすぎているように思う。地域経営について語るときに、市民協働の話だけをしては狭すぎる。指定管理者や職員意識なども含めて地域経営であろう。ラウンドテーブルの問題を取り上げる前に、そのような指摘が導入部としてあったほうがよい。
- 地域別計画をつくるのが、市民にとってどういう意味をもつことなのかについて説明があったほうがよいと思う。
- 地域別計画が市民から遊離したものにならないようにするための提案を書き足すこととしてはどうか。
- 地域経営システムの再構築の中で「地域教育推進委員」の特区モデルの提案についても、具体例だけでなく、説明が必要かと思う。具体例についてもPTAの必要性をうたいながらも、それ以外の方法があることも示したい。学習したことについて、まだ十分反映できていないので追記したい。世田谷ではPTAが成りたたなくなっているようで、地域で子どもを守ろうとしている。
- 地域別計画については、だれが実行するのかが見えてこない。町会との関係や、地域エリアがわからない。地域住民の代表が集まって推進するのか、それともあくまでも市が推進していくのかなど。地域エリアについても、狭すぎても広すぎてもいけない。産業経済についても地域性がある場合もあり、柔軟な地域別計画にする必要があるのではないか。
- 市全体の計画があって地域別計画が成り立つのだと思う。地域教育推進委員の例をみるといろんなヒントがあるように思う。企業も関わっていくことが考えられる。企業が若い人材を見つける場になってもよい。
- 地域エリアについては、地域の人が考えやすいスケールとすればよいのでは。
- 地域別計画を策定する過程でコミュニティが出来上がってはじめて、誰かが地域別計画の推進をマネジメントしていくことになるのだろう。

- 地域別計画の策定にあつての考え方についてももう少し説明がいるように思う。
- ラウンドテーブルについての提案と教育推進委員についての提案の2つの項目の関係が理解できるように書く必要がある。八尾市では4次総計でラウンドテーブルを推進しようとしてきたが、それだけでは満足する結果になっていないのが市民懇談会の認識で、ラウンドテーブルを充実するとともに、新たな他の手法をとることも考えられるというのが提言の趣旨かと思う。ラウンドテーブルそのものの多様性とラウンドテーブル以外の方法の多様性を懇談会としては考えていきたいということである。地域別計画については、将来的には地域住民が主体となって地域のまちづくりに取り組むスタイルに移行する必要があるのだが、そこには、テーマによっては企業なども関わることが考えられる。地域別計画を標準化することを望んでいるのではないというニュアンスが示せるとよい。地域別計画は行政主導で進めていってよいのだろうか。
- ラウンドテーブルが地域任せになっており行政のサポートが十分でなかった。東山本では人材がいたから取組が進んだが、他の地域では立ち上がっても継続できていないということもあるように思う。そうしたことを踏まえると、行政の関わりも必要かと思う。
- 最初については、行政が積極的に関わり支援をしていくといったニュアンスをしっかりと書くとよいと思う。
- ・コミュニティ推進スタッフの増員とともに、八尾市職員全員が、地域を意識しながら業務をしてほしいという提言を書いているが、ご意見をいただければと思う。
- 考え方としてはよいと思う。
- 担当地区が決まっていれば、地域にも入りやすいと思う。
- 職員が地域のことを知らない、地域の誰と話せばいいのかがわからないという状況ではいけないと思う。地域を見学して実情を知る、どんな団体や施設があるのかといったことを知るということが日常からできていれば、いざというときに有効な手立てができるように思う。地域に行くことを義務化すると問題があるかもしれない。問題がないように地域に溶け込んでもらえればと思う。
- 地域に溶け込むのはコミュニティ推進スタッフの業務のように思う。
- 残業代などの費用が新たに発生しないかたちで地域に溶け込んでもらえるとよい。貢献するような考え方で地域に入ってもらえると地域も伸びていくのではないか。
- 希望する職員が参加できるような仕組みも考えられる。
- 古い集落だと市役所の人、地元の話聞く相手が見えているが、新興住宅地では難しいのではないか。
- 職員全員による担当制という提案については抵抗感もあるようなので、地域番の職員を配置するような方向で取りまとめることとしてはどうか。

- 職員による市民活動を支援する制度（たとえば平日の昼間に参加できるなど）などを提案することも考えられる。
- 地域によってはラウンドテーブルが適している地域もあると思う。それぞれの地域が、地域にあった様々な手法で取り組むことを提案できればと思う。
- ラウンドテーブルという手法にとらわれすぎて、取り組めなかったということもあるだろう。
- コミュニティ推進スタッフの存在を知らない人もおられてもったいない。回覧板で広報してはどうか。
- 地域ごとに回覧板を回すのはよいことである。それぞれ、どのような情報を共有するのが必要なかを具体的に考えて、情報共有ができることよい。
- 職員自身による地域活動への参加を促す仕組みや、すべての地域住民が地域活動に関心を深める仕組みなどを加筆することとしたい。また、地域ごとの特性に応じてラウンドテーブルなどのネットワークづくり、組織づくりにつながっていけるとよいといったことを書き足すこととしたい。
- ・新産業の創出について肉付けをお願いできればと思う。
- ・先ほどのコラムの件については、最後の奥付のところ、多言語対応や多文化共生の視点についての期待を載せることとしてはどうか。
  - 八尾市には46カ国の外国人の方が住まわれている。
  - 各国の言語を掲載するのであれば、きちんとしたものを作る必要がある。
  - 良かれと思ってしたことが逆効果になってしまっているといけない。
- ・医療についてはご意見がなかったので、提言書からは省くこととしたい。項目としては省くが、医療に関わる提言はいくつかある。

### 3) 提言書提出に向けて

- ・意見交換を受けて、初谷座長からまとめがありました。
  - ・各項目についての修正案について、ご意見があれば個別にお寄せいただきたいと思います。
  - ・学識委員のコメントだけでなく、全員がコメントを掲載するようにしたい。何名かは既に提出いただいているが、8月7日が締め切りとなっているので、各自ご提出ください。
  - ・定例会での提言書の検討は今日で最後となる。

## 4. 閉会